



うめきた・グランフロント大阪 誕生！

4月26日、うめきた先行開発区域「グランフロント大阪」がついにまちびらきを迎えた。都心に残された最後の一等地「うめきた」の開業により、今後、ヒト・モノ・カネの流れが大きく変わることが予想される。関西経済の起爆剤として多方面からの高い期待と注目が集まる、うめきた先行開発区域「グランフロント大阪」について紹介する。

まちびらきにいたる経緯

2002年9月、都市基盤整備公団(現・都市再生機構)、関経連、大商、大阪府・市等で構成された実行委員会により、「大阪駅北地区国際コンセプトコンペ」が開催された。都心に残された最後の一等地ともいべき大阪駅北地区について、その可能性を最大限に生かした、美しく、活力と風格のあるまちづくりをめざしたこのコンペでは、関西のさらなる発展とわが国の国際競争力向上などに寄与する拠点とするためのアイデアを募集。国内外から966もの作品が寄せられた。

コンペの結果をふまえ大阪市は、2003年10月、まちづくりの基本的な方向性を取りまとめた「大阪駅北地区全体構想」を発表した。その中には、地区に導入すべき機能として「知識・新産業・ビ

ジネス創造拠点(ナレッジキャピタル)」が盛り込まれた。

2004年3月には、関西の産学官のメンバーによる大阪駅北地区まちづくり推進協議会(以下、推進協議会)が設立され、秋山関経連会長(当時)が座長に就任した。さらに、同年11月には、当会が中心となり、大阪駅北地区まちづくり推進機構(以下、推進機構)を立ち上げ、推進協議会と連動してまちづくりの具体化に向けた検討が進められた。

2005年3月、推進協議会は「ナレッジ・キャピタル構想」に向けた提言を策定、それを具体化したものとして、2005年9月、推進機構が「ナレッジ・キャピタルの実現に向けて」と題した報告書を取りまとめた。翌年2月には、報告書の内容を反映し、開発事業者の募集が行われ、決定した12社により以降の開発が進められてきた。2011年2月には大阪駅北地区の名称が、公募の結果、

「うめきた／梅北」に決定。そして、2013年4月26日、「ナレッジキャピタル」を中核施設とする、うめきた先行開発区域「グランフロント大阪」がまちびらきました。

グランフロント大阪の特徴

グランフロント大阪は、ナレッジキャピタルをはじめ、日本最大級の店舗面積を誇る商業施設やホテル、オフィス、分譲住宅を含む4棟の高層ビルで構成された複合施設である(図1)。その名称には、大阪の新しい玄関口にふさわしい「世界に開かれた最前線のまちであり続けたい」という思いが込められている。

大阪駅北口の正面に誕生した、約10,000㎡の憩いの空間「うめきた広場」をはじめとする豊かなオープンスペースでは、さまざまな取り組みを通じて街のにぎわいを創出していく。その運営管理は、公民連携による持続的かつ一体的なまちの運営を推進するタウンマネジメント組織、一般社団法人グランフロント大阪TMO(以下、TMO)が担っている。



うめきた広場

歩道空間を活用したオープンカフェ

グランフロント大阪では、公民連携による先進的なエリアマネジメントの取り組みとして、地区内の歩道空間を活用したオープンカフェが設置された。これは、2011年10月の都市再生特別措置法の一部改正により創設された「にぎわい・交流創出のための道路占用許可の特例制度」を、西日本で初めて活用したものである。大阪市が特別道路占用区域の指定という行政手続きを実施したことで、民間主体であるTMOによる道路占用および歩道空間の活用が特例的に可能となった。

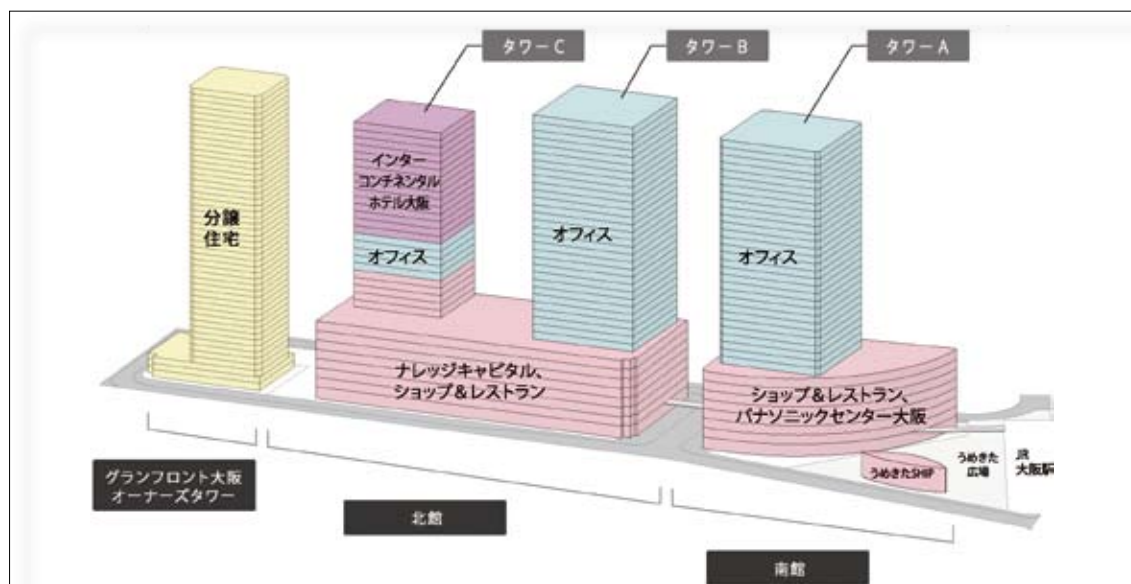


オープンカフェ

梅田の新たな交通サービス

まちびらきに合わせて、「うめだ、ぐるっと、めぐる」をコンセプトに、エリア巡回バス「うめぐるバス」が運行を開始した。梅田地区の12地点を、約30分で周回する。また、新たな移動手段としてレンタサイクル「うめぐるチャリ」も誕生。「うめきた広場」内に貸出・返却ポートが設けられた。さらに、「うめぐるバス」のルートに近接する駐車場と連携した「うめぐるパーキング」の設置により、梅田地区への自動車の流入抑制もはかれる。

〈図1 グランフロント大阪施設構成〉



知の交流から新たな価値を生み出す 知的創造拠点「ナレッジキャピタル」

ナレッジキャピタルとは

グランフロント大阪の中核施設・ナレッジキャピタルは、「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を創出する複合施設である(図2)。

分野を超えたさまざまな人々の出会いと交流のための会員制サロン「ナレッジサロン」、イノベーション創出のための事務所スペース「ナレッジオフィス」、多目的劇場「ナレッジシアター」、国際会議に対応する都市型会議施設「ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター」、先端技術を見て、触れて、体験して、語り合う交流施設「The Lab.」、企業と生活者とのコミュニケーション空間「フューチャーライフショールーム」などの施設で構成されている。



ナレッジサロン

会員制交流サロン「ナレッジサロン」入会に関するお問合せ：
一般社団法人ナレッジキャピタル TEL：06-6372-6427

また、ナレッジキャピタルには、コミュニケーションの活性化を担う専門スタッフ「ナレッジコミュニケーター」が配置されている。参画者間のコラボレーションの促進、情報発信、来場者の反応や評価のフィードバックなど、ナレッジキャピタル内の主要施設において横断的に活動し、参画者による新しい価値創造活動の支援を行う。なお、ナレッジキャピタルの施設運営は、一般社団法人ナレッジキャピタルならびに、株式会社KMOが担っている。

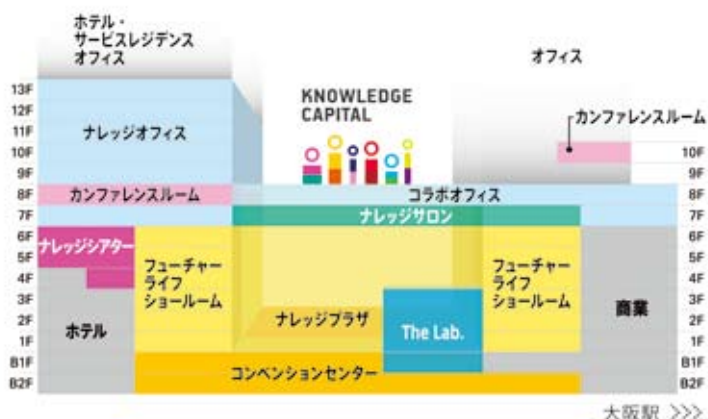
イノベーションを創出する 「知」の集積

■ナレッジオフィス

ナレッジオフィスには、企業のほか、産学官連携プロジェクトに積極的に参画する大学、研究機関が集積する(表)。大阪市立大学は、2013年7月(予定)に「健康科学イノベーションセンター」を開設する。健康科学に係る研究成果情報等の発信、大学シーズ・企業ニーズのマッチング、健康科学関連人材の育成等の取り組みを推進する。大阪大学は、「地域共創ラボうめきた」にて、都市・地域づくりに必要な都市情報の解析などを行うほか、ビジュアライゼーションをキーワードに「VisLab OSAKA」を組織し、多様な可視化技術によるサービスの提供を行う。

研究機関では、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)にある独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が、超臨場感技術および超高速ネットワーク技術の実証実験環境を構築し、大学や企業等さまざまな機関との連携を行う。また、関西経済界のシンクタンクである一般財団法人アジア太平洋研究所(APIR)もナレッジオフィス内に移転した。

〈図2 ナレッジキャピタル施設構成図〉



■特区制度を活用した事業

ナレッジキャピタルを含む大阪駅周辺地区は、関西イノベーション国際戦略総合特区の地区指定を受けている。

淀川キリスト教病院は、特区制度を活用し、ナレッジキャピタル内に「未来型健診センター」を開設する。先制医療サービスの提供のほか、大学・研究機関や民間企業とも連携し、未病データを活用した新たなバイオマーカーの探索や、医療産業用システムの研究開発、新製品の検証試験の場の提供を行う。

また、株式会社コングレは、イノベーション創出事業として「ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター」を開設・運営する。国際会議の誘致や

情報発信、人材交流を促進することで、イノベーションプラットフォーム構築の一翼を担い、国際競争力の強化に寄与することが期待される。



コンベンションセンターでのグランフロント大阪竣工披露祝賀会

〈表 ナレッジオフィスに入居する大学・研究機関・行政〉

大阪市立大学	抗疲労研究を中心とした、健康維持・先制医療への先進的取り組み(健康科学研究)を発信し、他大学、研究機関などの学学連携や企業等との産学連携を通じ、新たな製品・サービスを創出する。健康科学研究に係るセミナー等各種イベントの開催を通じて、健康科学研究の最先端についての理解を市民に促す。
大阪工業大学	公開講座やセミナー等の開催による、教育研究成果の公表と社会交流の場とする。知的財産専門職大学院の教育研究施設として、社会人教育の充実をはかる。また、学外の研究者・技術者との直接対話の場とすることで、産学公連携を推進する。
大阪大学 (環境イノベーション デザインセンター)	「地域共創ラボうめきた」を開設。都市・地域づくりに必要な都市情報の解析や、ICTや自然の叡智を活用した計画手法を追求するほか、社会人教育プログラムを開講し、将来を見据えた都市・地域戦略の提言ならびにそれらを実践できる人材の育成を行う。
大阪大学 (VisLab OSAKA)	さまざまな可視化にまつわる技術とノウハウを結集し、スーパーコンピュータのユーザーをはじめ、ビジュアルリゼーションを必要とする人々にサービスを提供するとともに、コミュニティを醸成する活動を展開。
関西大学	産学官連携の拠点として「関西大学うめきたラボラトリ」を設置。総合大学ならではの豊富なコンテンツと高度な研究シーズを活用して、地元大阪・関西に根ざした地域連携活動を推進する。異分野を融合し、多様な社会ニーズに応えるイノベーションの創出をめざす。
慶應義塾大学	「慶應大阪シティキャンパス」として、ビジネスや生涯学習に関する公開講座の提供を通じた社会・地域貢献や、大学院メディアデザイン研究科を中心とした産学官連携を実践する研究教育拠点としての活動を展開。
独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT)	情報通信技術の研究開発を、基礎から応用まで統合的な視点で推進。200インチ裸眼立体ディスプレイおよび超高速ネットワーク(JGN-X)を活用し、大学や企業等さまざまな機関との連携を行う実証実験環境を構築。この実験環境を用いて、臨場感あるコンテンツの制作や評価実験、さらには大容量コンテンツを伝送するネットワーク技術の実証実験を行う。
一般財団法人 アジア太平洋研究所 (APIR)	アジア太平洋諸国が直面している諸問題に対して課題解決型で知的貢献し、日本・アジア太平洋地域の持続的な発展に寄与すべく設立されたシンクタンク。アジア太平洋の共通課題の解決や日本・関西の新たな活力創出に向けた研究を推進する。
公益財団法人都市活力 研究所／グローバルベン チャーハビタット大阪	産業活性化のための産学官の交流・連携の促進、産学官連携による人材育成・教育研修および都市の活性化のためのまちづくりの調査研究・活動支援を通じて、関西・大阪の都市活力の向上に寄与する。
大阪市	グローバルイノベーション拠点「大阪イノベーションハブ」を開設。大阪・関西のポテンシャルを最大限に活用しながら、国内外から人材・情報・資金を誘引し、新製品・新サービスにつながるプロジェクトの創出・支援を行うため、グローバルなビジネスネットワーク構築に向けた国際プロモーションやオープンイノベーションの推進等に取り組む。

ナレッジキャピタルにおける 当会事業の展開

■関経連うめきたナレッジオフィス

当会では「関西イノベーション国際戦略総合特区」の推進を重点事業としている。うめきたを特区の中核拠点に位置づけ、情報発信や人材交流の場として、ナレッジキャピタル内に「関経連うめきたナレッジオフィス」を開設した。当会のサテライトオフィスとして、今後、イノベーション創出に向け企業や研究機関、大学等との交流スペースとして活用するほか、けいはんな学研都市をはじめとする特区の各拠点の成果を発信し、特区事業のさらなる加速・拡大をはかる場とする。また、立地の利便性を生かした多目的スペースとして、当会が取り組んでいる各種プロジェクトの推進拠点としても活用していく。

現在、けいはんな学研都市が有する技術の発信を目的に、情報通信研究機構によりThe Lab. 内に設置される、3D映像を眼鏡なしで見ることができる200インチ裸眼立体ディスプレイ(写真)等を活用した、けいはんな学研都市とうめきたとの拠点連携プロジェクトが進められている。

■健康科学ビジネス推進機構

大阪市立大学がナレッジオフィスに「健康科学イ



200インチ裸眼立体ディスプレイ

ノベーションセンター」を開設するのに合わせ、当会が関西バイオメディカルクラスター健康科学推進会議と連携し設立した「健康科学ビジネス推進機構」を同オフィスに移転する。

「健康科学イノベーションセンター」は、本機構の事業内容との親和性が高く、双方が共同オフィスで有機的に連携することで、健康科学分野に関する新たな製品・産業創出の推進をはかる。

このような事業の展開に加え、当会はナレッジキャピタル推進後援共同体として、ナレッジキャピタルで開催される各種イベントの後援等を行うなど、うめきたの活性化に資する活動を支援していく。

(産業部 東憲司)

オープニングイベント

●「THE 世界一展」

4月26日(金)から9月1日(日)まで、「魅せますニッポンの技と人」をテーマに、The Lab.内にあるイベントラポにてナレッジキャピタル開業記念イベント「THE 世界一展」を開催。本イベントは、展示やプログラムの共同開発を目的に、2012年11月、ナレッジキャピタルと基本協定を締結した東京・お台場の国立サイエンスミュージアム「日本科学未来館」の企画協力によるもの。全国各地にある、日本が世界に誇る「知」が生み出した技術・製品の数かずを展示する。



●ロボット演劇「銀河鉄道の夜」

5月2日(木)から12日(日)まで、ナレッジシアターのこけら落とし公演として、宮沢賢治原作、大阪大学教授で劇作家の平田オリザ氏の脚本・演出によるロボット演劇版「銀河鉄道の夜」を上演。

劇中に登場するロボット「ロボビー」は、けいはんな学研都市にある(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 知能ロボティクス研究所で開発されたものである。コミュニケーションに必要な機能を持つ知能ロボットで、舞台上で俳優と共演する。



一步先の未来を提案し、企業とユーザーが「関係性」を構築する場
フューチャーライフショールーム 主な出展企業

●アシックスストア大阪

アシックスジャパン(株)

ランナーのためのパーソナルサービスを展開。一人ひとりのランニング能力を科学的に分析するランニングラボと、足型を立体的に測定し、ランニング中の足の運びを診断するFOOT-IDを導入。



●スイーツ・ラボ

学校法人大手前学園

スイーツの情報発信基地。高度な製菓技術を習得できる「ラボ」、スイーツにまつわる最新の情報が収集できる「ギャラリー」、そして教育機関ならではの交流の場「スタジオ」を配置。



●エナレッジ

関西電力グループ

エネルギーの“ホント”や暮らしについて楽しみながら学べる体験型施設。普段意識することがないエネルギーに関する情報や、省エネで豊かな暮らしの提案などを行う。



●近大卒の魚と紀州の恵み近畿大学水産研究所

(株)アーマリン近大(近畿大学発ベンチャー企業)

近畿大学水産研究所が研究・開発し育てた近大マグロをはじめ、安心・安全でおいしい養殖魚を和歌山の食材とともに提供する専門料理店。「実学教育」という建学の精神に基づき、教育・研究の場としても活用。



●au OSAKA

KDDI(株)

関西エリア初の直営店舗。最新商品やサービスを体験できるショールームと各種手続きが可能な専用カウンターを常設。国内唯一の総合通信会社として、何でもできる、選べる「あたらしい自由。」を提案。



●コカ・コーラウエスト ハピネスラボ

コカ・コーラウエスト(株)

商品やプロモーションの情報を体験できるショールーム。季節などに応じて新しい話題を提供。また、125年以上の歴史を持つコカ・コーラの知識についても学ぶことができる。



●SUNTORY WHISKY HOUSE

サントリー酒類(株)

日本のウイスキーのふるさとである山崎蒸留所がある大阪の地で、「ウイスキーのある豊かなライフスタイル」をコンセプトに、最高のウイスキーが体験できる複合施設。



●SUMUFUMULAB [住ムフムラボ]

積水ハウス(株)

「生きるコトを、住むコトに。」をテーマに、自分らしい暮らし方を発見し、共創していく場。「かぞくのカタチ」「いごちのカタチ」「いざかたのカタチ」といったテーマ展示などを行う。



●ダイキンソリューションプラザ「フーハ大阪」

ダイキン工業(株)

“空気”をテーマとした体感型ショールーム。「空気の気づき」ゾーン、住宅用と業務用の各ソリューションゾーンで構成。空気とのふれあいと体感を通じて、新たな暮らしを提案。



●Smart Camp うめきた

ロート製菓(株)

食と美と健康をつなぐパワースポット。フレンチの巨匠・三國シェフとコラボレーションした薬膳フレンチレストラン、都会型農園、リラクゼーションサロンで、今と未来の“健康”作りをお手伝い。

